

2024年度活動概要

ESP（関西）研究会

ESP（関西）研究会では、「ESP 教育・研究の過去、現在、未来」をテーマとして活動した。2024年度は計2回の研究会をオンライン（Zoom）で実施した。歴史あるESP（関西）研究会であるが、コロナの影響もあり参加者の減少が顕著に見られたため、2023年度からは既存の会員のみならず、JACET 会員全体に研究会の内容を告知し、関西内外から参加者を募った。その結果、昨年度、今年度共に参加者は例年の2～3倍（毎回50名程度）となり、成功裏に終わった。

まず、2024年度第1回研究会では2件の研究発表を行った。第一発表は表谷純子先生（神戸学院大学）、中嶋アンディ史人先生（神戸学院大学）、仁科恭徳先生（神戸学院大学）による「AI 時代における日本人大学生のための英文法教材開発—ESP の視点から—」に関する発表であった。また、第二発表は吉村征洋先生（龍谷大学）による「協同学習によるグループワークが学習者のエンゲージメントに与える影響について」であった。

また、2024年度第2回研究会においては、初の試みとして学術英語学会との合同フォーラムを実施した。ESP 研究会からは、松田紀子先生（近畿大学）、浅野元子先生（大阪医科薬科大学）、藤枝美穂先生（大阪医科薬科大学）らによる「大学生における専門分野の英単語親密度調査—医療分野を中心に」の発表、野口ジュディー津多江先生（神戸学院大学）による“What I learned from this course”：Student responses to ESP at the graduate school level の発表があった。

これらいずれの発表も、近年のESP 研究の発展を裏付ける内容で、ESP 教育・研究の理論と実践が多角的に紹介されていた。来年度も継続して研究テーマを追求していきたい。